

# りんどう紫系早生F<sub>1</sub>品種「栃木 r 2号」(るりおとめ 月あかり)、 「栃木 r 3号」(るりおとめ 星あかり)の育成

## 1. 成果の要約

8月旧盆出荷用の花色が良く、着花段数が多いりんどう紫系早生品種「栃木 r 2号」(るりおとめ 月あかり)、「栃木 r 3号」(るりおとめ 星あかり)を育成した。「栃木 r 2号」の花は鮮紫色のシングル咲きで、「栃木 r 3号」の花は濃紫色でダブル咲きである。

## 2. キーワード

るりおとめ

## 3. 試験のねらい

本県のりんどう栽培は、パイプハウスを利用した無加温半促成栽培による5月下旬からの早出し出荷が主力で、全国一の早出し産地となっている。当场ではそれに対応した品種として「リンドウ 栃木 1号」(商標名：るりおとめ)を育成し、県内産地の生産振興につなげてきた。

しかし、生産者の経営規模拡大および産地拡大のためには出荷期間の延長が必要なことから、重要な需要時期である8月旧盆出荷用の品種を育成する。

## 4. 育成経過

- (1) 平成24年に当场保有の紫系晩生系統と紫系極早生系統を9組み合わせで交配した(表-1)。
- (2) 親はどちらも下段から上段まで一斉に開花する系統を使用した。
- (3) 平成26年に開花1年目での特性調査を実施した。その中で、花色および草姿等が優れ、形質や開花揃いがよく、高い生産性をもつ「栃木 r 2号」、「栃木 r 3号」を選抜した。
- (4) 平成27年4月に品種登録出願を行い、同年9月に出願公表された。

## 5. 特性の概要

- (1) 「栃木 r 2号」の平均開花日は7月下旬から8月上旬で、花色は鮮紫色で斑点が少なく「リンドウ 栃木 1号」とほぼ同じ色である。開花タイプは、一つの節に2つの花が付くシングル咲きである(表-2、写真-1)。
- (2) 「栃木 r 3号」の平均開花日は8月上旬で、花色は濃紫色で斑点が少なく「リンドウ 栃木 1号」よりも濃い青色である。開花タイプは、一つの節に4つの花が付くダブル咲きである(表-2、写真-2)。

## 6. 栽培上の留意点

両品種とも栽培適地は水田で、栽培期間中は乾燥しないように十分かん水する。特に、「栃木 r 3号」は、土壌水分が少ないとチップバーンの発生がみられることから注意が必要である。

なお、「栃木 r 2号」は「るりおとめ 月あかり」、「栃木 r 3号」は「るりおとめ 星あかり」という愛称で平成28年度から出荷が開始された。

(担当者 研究開発部 花き研究室 渡辺 強\*)

\*現経営技術課

表-1 栃木r 2号、栃木r 3号の交配組み合わせ

品種名	交配組み合わせ	
	♀	♂
栃木r 2号	TOV-02 (固定系: 晩生)	TOIM103 (るりおとめ父系統: 極早生)
栃木r 3号	TOV-01 (固定系: 晩生)	TOIM103 (るりおとめ父系統: 極早生)

表-2 栃木r 2号、栃木r 3号の主な特性

品種名	萌芽数 (本)	有効茎数 <sup>1)</sup> (本)	平均開花日	着花段数 (段)	開花タイプ <sup>2)</sup>	花色 <sup>3)</sup>	
						RHS	JHS
栃木r 2号	13.2	9.5	7/30	5.8	シングル咲き	96A	鮮青紫(8005)
栃木r 3号	9.9	7.8	8/2	6.7	ダブル咲き	93A	濃青紫(8006)
栃木1号 (るりおとめ)	10.6	8.3	6/3	6	シングル咲き	96A	鮮青紫(8005)

注1. 有効茎数は、地際部30cmの高さの茎径が3.5mm以上の茎数。

注2. 開花タイプは、開花盛期の各段の開花輪数により判断し、2輪の場合はシングル咲き、4輪の場合はダブル咲き。

注3. 花色はRHS カラーチャートの色票番号及び日本園芸植物標準色票(JHS カラーチャート)の色表記。



写真-1 栃木r 2号



写真-2 栃木r 3号